

# シラバス

事業者名 社会福祉法人すこやか福祉会

科目名	1 職務の理解		
指導目標	研修に先立ち、これからの介護が目指すべき、その人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について介護職がどのような環境でどのような形で、どのような仕事を行なうか、具体的なイメージを持って実感し、以後の研修に実践的に取り組めるようになる。		
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数
多様なサービスの理解	3時間	3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護保険による居宅サービス</li> <li>○ 介護保険による施設サービス</li> <li>○ 介護保険外サービス</li> </ul>
介護職の仕事内容や働く現場の理解	3時間	3時間	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 介護サービスを展開する現場の実際 各種サービスの内容や介護職の仕事内容や働く現場を理解する</li> <li>○ 介護サービスの提供にいたるまでの流れ ケアマネジメントを通じて理解する</li> <li>○ 介護過程とチームアプローチ</li> <li>○ チームアプローチの必要性と具体的な連携方法を理解する</li> </ul>
合計	6時間	6時間	
科目名	2 介護における尊厳の保持・自立支援		
指導目標	介護職が、利用者の尊厳のある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスの提供にあたり、基本的視点とやっつけられない行動例を理解する。		
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数
人権と尊厳を支える介護	5時間	1時間	4時間
自立に向けた介護	4時間	1時間	3時間
通信(自宅学習)			課程課題提出(論述式3問、列挙式4問、穴埋式1問、五肢一択式1問)
合計	9時間	2時間	7時間
科目名	3 介護の基本		
指導目標	介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクと、その対応策のうち重要なものを理解する。 介護を必要としている人の個性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援をとらえることができる。		
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数
介護職の役割、専門性と多職種との連携	1時間	0.5時間	0.5時間
介護職の職業倫理	1時間	0.5時間	0.5時間
介護における安全の確保とリスクマネジメント	2時間	1時間	1時間
介護職の安全	2時間	1時間	1時間
通信(自宅学習)			課題提出(論述式2問、列挙式2問、穴埋式4問、五肢一択式1問)
合計	6時間	3時間	3時間
科目名	4 介護・福祉サービスの理解と医療の連携		
指導目標	介護保険制度や障がい者自立支援制度を担う一員として最低限知っておくべき制度の目的、サービスの流れ各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを習得する。 列挙できる。		
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数
			講義内容・演習の実施方法等

介護保険制度	4時間	1時間	3時間	① 介護保険制度創設の背景及び目的、動向 介護保険制度が創設された背景を理解したうえで、制度の目的と動向について学ぶ ② 介護保険制度のしくみの基礎的理解 介護保険制度の基本的なしくみを理解する ③ 制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 介護制度にかかわる組織とその役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ
医療との連携と リハビリテーション	2時間	1時間	1時間	① 医療行為と介護 ② 訪問看護 ③ 施設における看護と介護の役割・連携 ④ リハビリテーション 介護職と医療行為の実情と経過について理解する 在宅および施設における介護職と看護職の役割・連携について理解する リハビリテーションの理念と考え方について理解する
障がい者自立支援制度 及びその他制度	3時間	1時間	2時間	① 障がい者福祉制度の概念 障がい者福祉制度における障がいの概念について、その歩みをふまえて学ぶ ② 障がい者支援制度の仕組みの基礎的理解 障がい者制度の基本的なしくみについて学ぶ ③ 個人の権利を守る制度の概要
通信(自宅学習)				課題提出(論述式2問、列挙式3問、穴埋式2問、五肢一択式1問)
合計	9時間	3時間	6時間	
科目名	5 介護におけるコミュニケーション技術			
指導目標	高齢者や障がい者のコミュニケーション能力は一人一人異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを図ることが専門職に求められていることを認識し、初任者としての最低限のとるべき(とるべきでない)行動例を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護における コミュニケーション	4時間	2時間	2時間	① 介護におけるコミュニケーション意義、目的、役割 対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する ② コミュニケーションの技法、介護現場におけるコミュニケーション 介護におけるコミュニケーションの役割と技法について理解する ③ 利用者・家族とのコミュニケーションの実際 ④ 利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する
介護におけるチームの コミュニケーション	2時間	1時間	1時間	① 記録における情報の共有化 介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ ② 報告・連絡・相談 チームのコミュニケーションに必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ ③ コミュニケーションをうながす環境 会議に意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ
通信(自宅学習)				課題提出(論述式1問、列挙式2問、穴埋式2問、五肢一択式1問)
合計	6時間	3時間	3時間	
科目名	6 老化の理解			
指導目標	加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自ら継続的に学習すべき事項を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
老化に伴うことからの 変化と日常	3時間	1.5時間	1.5時間	① 老年期の定義 老年期や高齢者の定義について理解する ② 老年期の発達と老化に伴う心身の機能の変化の特徴 老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する 老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する ③ 老化に伴う心身機能の変化と日常生活への影響 多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する
高齢者と健康	3時間	1.5時間	1.5時間	① 高齢者の症状・疾患の特徴 高齢者の多くにみられる症状や訴えがどのような疾病が起るのかなど、その特徴について理解する ② 高齢者の疾病と日常生活上の留意点 ③ 高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する
通信(自宅学習)				課題提出(論述式1問、列挙式2問、穴埋式2問、五肢一択式1問)
合計	6時間	3時間	3時間	
科目名	7 認知症の理解			
指導目標	介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
認知症を取り巻く状況	1時間	0.5時間	0.5時間	① 認知症のケアの理念 「認知症を中心としたケア」から、「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する ② 認知症ケアの視点 問題視するのではなく、人として接することを理解する できないことではなく、できることをみて支援することを理解する
				① 認知症の概念

医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理	2時間	1時間	1時間	<p>老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する</p> <p>②認知症の原因疾患とその病態</p> <p>認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ</p> <p>③原因疾患別ケアのポイント 健康管理</p> <p>アルツハイマー型認知症、血管性認知症をはじめとした認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ</p>
認知症に伴うことからの変化と日常生活	2時間	1時間	1時間	<p>① 認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴</p> <p>認知症の症状をすることによって、どのようなケアが必要かを学ぶ</p> <p>認知症のJ人の行動と環境との関係について理解する</p> <p>③ 認知症の利用者への対応</p> <p>病気の症状があっても、その人の尊厳を守る視点をもつことについて理解する</p>
家族への支援	1時間	0.5時間	0.5時間	<p>①家族へ支援</p> <p>家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ</p> <p>②認知症の人を介護する家族へのレスパイトケア</p> <p>家族を助けるだけの存在ではなく、ともに認知症の人を支えていくパートナーであることを学ぶ</p>
通信(自宅学習)				課題提出(論述式2問、列挙式3問、穴埋式2問、五肢一択式1問)
合計	6時間	3時間	3時間	
科目名	8 障がいの理解			
指導目標	障がいの概念とICF、障がい者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方について理解する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
障がいの基礎的理解	1時間	0.5時間	0.5時間	<p>① 障がいの概念とICF</p> <p>ICFの分類と医学的分類・ICFの考え方</p> <p>② 障がい者福祉の基本的理念</p> <p>ノーマライゼーション・リハビリテーション・インクルージョン</p>
障がいの医学的側面、生活障害、心理・行動の特徴、かかわり支援等の基礎的知識	1.5時間	1時間	0.5時間	<p>① 身体障がい</p> <p>視覚障がい・聴覚、言語障がい・運動機能障がい(肢体不自由)・内部障がい</p> <p>② 知的障がい</p> <p>③ 精神障がい ( 高次脳機能障がい、発達障がいを含む )</p> <p>統合失調症、気分(感情)障がい・依存症などの精神疾患</p> <p>高次脳機能障がい・広汎性発達障がい、学習障がい</p> <p>注意欠陥多動性障がいなどの発達障がい</p> <p>④ その他の心身の機能障がい(難病)</p>
家族の心理、かかわり支援の理解	0.5時間	0.5時間		<p>家族の理解・障がいの受容支援</p> <p>介護負担の軽減</p>
通信(自宅学習)				課題提出(論述式1問、列挙式2問、穴埋式2問、五肢一択式1問)
合計	3時間	2時間	1時間	
科目名	9 ことからのしくみと生活支援技術			
指導目標	介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法を理解し基礎的な一部または全介助等の介護を実施できる。			
	尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等での生活を支える介護技術や知識を習得する。			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
介護の基本的な考え方	2時間	1時間	1時間	<p>①理論に基づく介護</p> <p>「介護」が理論的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する</p> <p>②法的根拠に基づく介護</p> <p>「介護」が法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する</p>
介護に関することからのしくみの基礎的理解	4時間	2時間	2時間	<p>①学習と記憶の基礎知識</p> <p>②感情と意欲に関する基礎知識</p> <p>学習と記憶、感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する</p> <p>③自己概念と生きがい</p> <p>④老化や障がいを受け入れる適応行動とその阻害要因</p> <p>自己概念と生きがい、老化や障がいの受容に関する基礎的知識を理解する</p>
介護に関するからだのしくみの基礎的理解	4時間	2時間	2時間	<p>①生命維持・恒常のしくみ</p> <p>生命の維持・恒常のしくみを理解する</p> <p>②人体の各部の名称と動きに関する基礎知識</p> <p>③骨・関節・筋に関する基礎知識とボディメカニクスの活用</p> <p>骨や関節など、からだの動きのメカニズムを理解する</p> <p>④中枢神経と体性神経に関する基礎知識</p> <p>神経の種類と、その働きを理解する</p> <p>⑤自律神経と内部器官に関する基礎知識</p> <p>眼や耳、心臓をはじめとするからだの器官のはたらきを理解する</p>
生活と家事	4時間	2時間	2時間	<p>① 生活と家事の理解</p> <p>生活を継続していくための家事的重要性について学ぶ</p> <p>②家事援助に関する基礎的知識と生活支援</p> <p>家事援助は利用者にとってどのような意味があるのかを理解し、</p>
快適な居住環境整備と介護	4時間	1時間	3時間	<p>① 快適な居住環境に関する基礎知識</p> <p>安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ</p> <p>住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ</p> <p>②高齢者・障がい者特有の居住環境整備と福祉用具の活用</p> <p>高齢者や障がいのある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具を利用する意味や</p>

				視点を学ぶ
整容に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	3時間	3時間		① 整容に関する基礎知識 整容の必要性と、整容に関連するところからだのしきみを理解する ② 整容の支援技術 利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける
移動・移乗に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	12時間	12時間		① 移動・移乗に関する基礎知識 ② 移動・移乗に関連する福祉用具とその活用方法 ③ 利用者・介助者にとっての負担の少ない移動・移乗の支援 ④ 移動・移乗を阻害する要因の理解とその支援方法 ⑤ 移動と社会参加の留意点と支援 移動・移乗の必要性と、移動・移乗に関連するところからだのしきみを理解する 利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける 心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する
食事に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	2時間	2時間		① 食事に関する基礎知識 食事の必要性と、食事に関連するところからだのしきみを理解する ② 食事環境の整備と食事に関連する用具の活用方法 ③ 楽しい食事を阻害する要因の理解と支援方法 ④ 食事と社会参加の留意点と支援 利用者本人の力を活用し、食事の介助を行うための技術を身につける 心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する
入浴・清潔保持に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	6時間	6時間		① 入浴・清拭保持に関連した基礎知識 入浴・清潔保持がもたらす心身への効果と、入浴に関連するところからだのしきみを理解する ② 入浴・清潔保持に関する用具の活用方法 ③ 楽しい入浴を阻害する要因の理解と支援方法 利用者本人の力をいかに、楽しい入浴介護を行うための技術を身につける 心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する
排泄に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	6時間	6時間		① 排泄に関連した基礎知識 排泄の必要性と排泄に関連するところからだのしきみを理解する ② 排泄環境の整備と関連する用具の活用方法 利用者本人の力をいかに、気持ちのよい排泄介護を行うための技術を身につける ③ 爽快な排泄を阻害する要因の理解と支援方法 心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する
睡眠に関連したところからだのしきみと自立に向けた介護	2時間	2時間		① 睡眠に関連した基礎知識 睡眠の必要性と睡眠に関連するところからだのしきみを理解する ② 睡眠環境の整備と関連する用具の活用方法 ③ 快い睡眠を阻害する要因の理解と支援方法 心地よい睡眠を支援するための知識と技術を身につける 心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する
死にゆく人に関したところからだのしきみと終末期介護	2時間	2時間		① 終末期に関する基礎知識 終末期のとらえ方を学ぶ ② 生から死への課程 終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ ③ 「死」向き合うことへの理解 ④ 苦痛の少ないし死への支援 死に直面したときの人の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ
	14時間	14時間		総合生活支援技術実習
介護過程の基礎的理解	4時間	4時間		介護過程の目的・意義・展開 介護過程とチームアプローチ
総合生活支援技術演習	6時間	6時間		事例による展開 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。
通信(自宅学習)				課題提出Ⅰ(論述式1問、列挙式2問、穴埋式4問、五肢一択式1問) 課題提出Ⅱ(論述式3問、列挙式2問、穴埋式1問、五肢一択式1問) 課題提出Ⅲ(論述式3問、列挙式2問、穴埋式1問、五肢一択式1問) 課題提出Ⅳ(論述式3問、列挙式2問、穴埋式1問、五肢一択式1問)
合計	75時間	65時間	10時間	
科目名	10 振り返り			
指導目標	研修全体を振り返り、本研修を通して学んだことについて実際の施設現場で再確認を行うとともに、就職後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる			
項目名	時間数	通学時間数	通信時間数	講義内容・演習の実施方法等
振り返り	3時間	3時間		研修を通して学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点(利用者の状態像に応じた介護過程、身体、心理、社会面を総合的に理解するための知識の重要性、チームアプローチの重要性等)
就職への備えと研修修了後における継続的な研修	1時間	1時間		就職への備えと研修修了後における継続的な研修
合計	4時間	4時間		